

## 〔海外レポート〕

## 各国の若い才能が集集した ジーナ・バックアウワー国際コンクール。 中国・韓国勢の演奏に圧倒

レポート◎杉本 安子先生(当協会執行役員)

2005年度のジーナ・バックアウワー国際ピアノコンクール・ヤングアーティスト部門(14～18歳)の審査に、米国ユタ州ソルトレイクシティに行ってきました。ソルトレイクシティはモルモン教の本部がある街で、そのテンプルスクエアの中の教会が会場でした。教会の中に高い舞台がつくっており、審査員席の2階からはちょうど良い高さでしたが、一般客席の1階からはやや見上げる形になっていたのが印象的でした。このコンクール創始者の



のポール・ボライ先生が世界各地でオーディションを実施し、選ばれた35名(うち1名は当日棄権)が、6月21日から25日まで、一次25分の自由選曲によるリサイタル、1日おいて二次35分の自由選曲によるリサイタルが課されます。

このコンクールの特徴は、ボライ先生の提案により、全ての受験生が一次二次全プログラムを弾きます。その結果本選に進む6名を決定するという規則でした。この年代の受験者が中1日あけて、これだけのプログラムを弾くのは大変な事と思われましたが、粒よりの35名の受験者は、どの人もレベルの高い演奏を披露し、大変立派でした。ボライ先生も今年レベルが高い!!と大変ご満足でした。受験者はアジアからの人達が多く、中国、韓国のレベルの高さに圧倒されました。彼らの演奏は真剣そのもので、テクニックの素晴らしさは勿論のこと、音楽が大変洗練されていて、少し前の中国の演奏スタイルとは全く異なって、この年代でここまで表現することができるという事に、大変に感銘を受けました。日本から参加の方達も大変素晴らしい演奏をなさり、胸が熱くなりました。決勝進出者6名のうち、1人日本人(前山仁美さん)が進出、あとはロシア(15歳)、イタリア(18歳)、アメリカ(16歳)、香港(16歳)、中国(16歳)という結果でした。

私個人の印象としては、もう一人くらい日本人が残ってもよかったのにと考えた程、日本の方達のレベルは大変高かったと思いました。残った6名は二次の発表の翌日に2台ピアノでコンチェルトの第1楽章のみ演奏しました。曲はラフマニノフ協奏曲Op.1が2名、ベートーヴェンNo.3、No.4、ラフマニノフのパガニーニの主題によるラブソディ、サン・サーンス協奏曲No.2でした。優勝したのは、一次・二次予選で美しくよく響く音色で音楽性に富んだ演奏をした、香港出身16歳のKuok-Wai Lio君でした。本選のベートーヴェン協奏曲4番第1楽



優勝したKuok-Wai Lio君。細身の体で、手もさほど大きくないそうだが、美しい音を持つ。

章も、他の誰よりも音の美しさが際立っており、音楽の美しさに感銘を受けました。

受賞パーティの時、近くでみたLio君はとても細身で指も細く、この手であのような美しい音を紡ぎ出したのかと思いましたが、先生にいつも手の事は注意され

ると言っていました。経歴を見ると、ジュニアチャイコフスキー国際コンクール(2003年度)、ショパンコンクール in Asiaで既に入賞しているほか、エトリンゲン国際コンクールにも出場しており、あの堂々とした様子は経験がものをいうと感じました。中国系の受験者達の多くは、英語が上手で積極的に審査員に話しかけ、もう立派な国際人になっていると感じました。これからは、英語がある程度出来ないと、大きい舞台に立つ時に気後れもあるでしょうし、色々な場面で損をするように感じました。

素晴らしい熱演が繰り広げられた5日間、審査も大変ハードで朝9時30分から15時まで、その後ランチタイム1時間をはさんで、16時から遅い日は22時近くまで、という厳しいもので、このようなスケジュールは私自身経験したことはありませんでした。しかし、若い素晴らしい才能にたくさん出会えたこと、彼らの真剣さに感動し、審査時間の長さを全く感じませんでした。しかし、外は暑いのに会場はギンギンに冷えているのにはちょっと閉口しました…。コンクールの運営も大変スムーズで、大勢のボランティアの方々を支えていました。ホームステイも充実していて、受験者はいつも送り迎えをして頂いているようでした。

ソルトレイクシティはロサンゼルスから飛行機で1時間程(アメリカは各地で時差があって、これで始めすぐ混乱してしまいました)の所にある、安全で美しい静かな街でした。来年は大人の部門が開催されるとの事、指導者は日常の忙しさを振り切って、やはり世界のレベルに触れるためにでかけていなくては、と今回強く思いました。実際に聴いて、観る、というのは大変勉強になりました。今回、中国の指導者の先生方が何名も会場にいらしていたのを見て、それをしていなかった私自身、大変反省しました。

あの先生方の熱心さが、今の中国の子ども達のレベルを作っているのかと考えさせられました。この経験をもとに、また初心に戻って勉強したいと感じた今回の旅でした。



各国の審査員。中央が主宰のポール・ボライ先生。